

平成 25 年度のスタートに当たって

# 新本部での成果を生かし 時代を見すえた 新産業育成に活用

## 平成24年度を振り返って

平成24年度を振り返って思うことは、平成23年10月に旧西が丘本部から移転した新本部の成果が出た年であったことです。

センター全体で2割程度の利用が増えたこと、そして10月にスタートした中小企業海外展開支援サービスが軌道に乗ったことが、その現れであると思います。中小企業の皆さまの積極的なご利用に感謝申し上げます。

ご利用が増えた背景には、平成23年度以来、力を入れている広報によるところが大きいと思います。マスメディアを利用したり、分かりやすく漫画で説明するパンフレットを作成して配付したり、「鉄腕アトム」でおなじみのキャラクターを起用したりしたことで、中小企業に都産技研が新しくなったことが伝わったのではないのでしょうか。ちなみに、4年に一度、無作為に選んだ1万社の中小企業に手紙を出して、都産技研の認知度調査を実施していますが、平成20年度は33%だった認知度が、

24年度は42%で、10%近くもアップしているという結果が出ました。

さらに、この成果は、職員の努力があってこそとも思っています。新本部は設備も充実し、依頼試験、機器利用も大きく伸びていますが、どんなに良い設備があっても、使いこなせなくては意味がありません。職員が企業の依頼に応えた試験を丁寧に行うとともに積極的なPRをしてくれた成果でもあります。この場を借りて、職員の皆さんにも感謝したいと思います。

## 開発型中小企業支援を具体化する年度に

平成24年度の成果を、今年度に結びつけていくために、新本部の目玉設備である3つのセクターをさらに充実したものにしたいと考えています。セクターを、新しい産業を起こす開発型中小企業支援に活用することで、目に見える成果につなげていきたいと思っています。

また、研究開発も、環境・省エネ、EMC・半導体、メカト

## contents

### ■ 理事長メッセージ

平成25年度のスタートに当たって

新本部での成果を生かし  
時代を見すえた新産業育成に活用 2

### ■ 特集 — 都産技研ブランド試験5

ガラス技術 4

技術解説 東京都地域結集型研究開発プログラム

フェーズⅢの紹介～開発技術の製品化～ 6

シリーズ第5回 産学公連携 コーディネータに聞く 7

研究・設備紹介 TIRI 研究現場のいま 未来 8

支所紹介レポート 第1回 城東支所 9

多摩テクノ広場 10

INFORMATION 11

Topics 12

## 表紙の写真

No.7

## ガラス技術

都産技研では、公設試験研究機関としては関東唯一を誇るガラス技術を保有しています。

ガラスの破損事故解析から成分分析、表面観察、異物分析、熱分析など、あらゆる角度から幅広く技術支援を行い、より良い製品づくりへのサポートを行っています。

ガラス製品の評価やガラスの破損事故解析を行う際に使うのが「ひずみ計」。表紙の写真は、この装置を使ってガラスブロックのひずみを観察したところです。



ロニクス、バイオ応用の4つの分野に注力していきます。平成23年～27年の第二期中期計画における重点研究分野であり、3年目にあたる今年度は、その成果を中小企業へ応用展開していきたいと思えます。

また、輸出製品技術支援センター(MTEP)の事業を拡大することで、開発型中小企業の海外展開支援も強化する予定です。

### 平成25年度に向けての経営方針

今年度の経営方針として、3つの柱があります。

一つ目は、研究開発の成果展開です。研究テーマは約100件あり、そのうち、環境・省エネ、EMC・半導体、メカトロニクス、バイオ応用の重点4分野が約40%を占めています。この分野の成果展開が大変重要となります。

二つ目は、セクターの利用を伸ばし、新産業育成に貢献することです。セクターの持つ高度な先端機器を、昨年以上に中小企業に活用していただく予定です。

三つ目は、依頼試験を充実させることです。照明や音響など、日本中で都産技研でしかやっていない、都産技研ならではの7分野の試験をブランド試験と呼んでいます。これらを一層充実させるとともに、ブランド試験の数ももっと増やしてまいります。目標としては10分野を目指しています。

### 新しい技術に対応した環境づくり

また、今後「3Dデジタルものづくり」に力を入れていきたいと考えています。

日本のものづくりのキーテクノロジーは金型であり、その技術は世界でもトップクラスで、日本の武器でもありました。しかし、このほど米国を中心に金型を介さず、3Dでデザインしたものをそのまま製品化するという技術への取り組みが進んでいます。

つくれるものはまだ限定されていますが、これは金型でものづくりをしてきたわが国にとって大きな脅威です。

そこで都産技研が構想しているのが、「3Dデジタルプロダクトイノベーション環境」です。米国等に先んじて、3Dデジタルデータから直接ものづくりのできる環境をつくりたいと思っています。そのための設備を都産技研としても充実してまいります。

中小企業の中には、3Dのソフトウェアを用いた設計



は難しいと感じていらっしゃる方もあるかと思いますが、競争力を高めるには避けて通れない課題です。中小企業の皆さまの積極的な取り組みに期待しています。

### 中小企業の皆さまへ

さて、今、中小企業の皆さまに申し上げたいことは、海外にも是非目を向けていただきたいということです。今後、人口減少が続く中、国内だけで製造・販売をしていくことは難しくなるでしょう。ものをつくる段階から、海外にも販売することを考慮して事業を進めることが、日本の製造業を守り、成長させていくことにもなると思います。

その際、海外の製品規格をクリアすることが重要となりますが、都産技研には国際規格対応支援を行う、輸出製品技術支援センター(MTEP)がありますので、ぜひ活用していただきたいと思えます。

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター  
理事長 片岡 正俊

片岡 正俊